

## 平成26年度 第1回 平塚市図書館協議会 会議記録 【要旨】

開催日時	平成26年5月27日（火） 13時57分～16時03分
開催場所	平塚市中央図書館 ホール
出席者	委員 葛西 裕美子 会長 諸山 朝子 副会長 村山 真由美 委員 加藤 利雄 委員 大河原 将太 委員 小島 明子 委員 事務局 後藤信幸社会教育部長 見留俊也中央図書館長 池田教正北図書館長 脇孝行西図書館長 富田和博南図書館長 加藤祥管理担当長 菊坂伸江奉仕担当長 山田剛弘管理担当主管
傍聴人	2名

### 会議の概要

1 あいさつ 葛西裕美子会長 見留俊也中央図書館長

### 2 議 事

#### (1) 事務局からの報告等

【事務局】 資料1-1「平成25年度平塚市図書館事業報告」資料1-3「平成26年度図書館費」資料1-2「平塚市の図書館の来館者が再び減少傾向に！」の順に説明を行ったのち、各地区図書館長と奉仕担当長が、来館者の減少に関しての考察を述べた。

【考察1】 図書資料費がピーク時の6割、さらに視聴覚資料はゼロに近い予算なので、その影響は大きい。ただ、既存の資料の見せ方を工夫すれば、増やせる可能性はあると思うので、結果を謙虚に受け止め努力したい。

【考察2】 本館では、月別・曜日別に分析を行っている。新刊書は回転率が高いので、やはり資料費の削減は大きい。分析の結果から購入雑誌の大幅な見直しなどをしたい。高齢者と子どもに利用が分かれているので、これをどう考えるかが鍵だと思っている。

【考察3】 本館では来館者数は昨年度大幅に減少したが、祝日に閉館せざるを得なかった、大雪など外的な要因が主因。重要な指標ではあるが、図書館においては、県内の全ての図書館が公表している貸出利用者数を基に検討するべきだったと思う。

【考察4】 統計に表れない参考室のレファレンスや学習室などの時間の長い利用は逆に増えている感はある。減った要因は運転免許の更新講習などのホールの利用が昨年はほとんどない。大雪や台風などのアクシデント、返却ポストの増などが重なったと考える。

【委員】 4点質問をする。1 考察で図書館は、来館者数よりも貸出利用者数を重視するとあったが、その相関関係。2 返却ポストの増設による来館者数への影響。3 来館者減の大きな要因である資料費削減の中で、リクエストをどのように資料購入に反映しているか。4 大学図書館との連携を来館者増や貸出利用増に結び付けることができないか。

【事務局】 1は、手元にある資料の中だけで答えると、2月に大雪があり、前年度と同じ週、同じ曜日の日で大きく来館者が減少した日を見ると、貸出数も比例して減少した。2 返却ポストが増設されたことにより返却⇒貸出⇒返却の循環がなくなり、正確な数字はないが、各館で、年間千人単位で影響があると思う。また、自宅からインターネットで予約し、連絡が来たら借りたい本だけ借りて、返却ポストで返すとといった利用が多くなっていると考えられる。3は、リクエストは当然反映しているが、それだけでなく選書の担当もアンテナを張り、話題

の本を提供するなど工夫はしている。4の大学図書館との連携は、本来の目的が公共図書館相互の貸借だけでは揃えることができない専門図書を、研究目的で来館する方へ資料提供することで、その需要はあるが、増やすことは難しいと思う。

- 【事務局】 1を補足すると、本館は、来館者は減少傾向だが、貸出数は横ばいである。日や時間単位でみると来館者は天候などに大きく左右されるが、貸出数はそこまで影響がない。
- 【会長】 来館者増に結び付く提案があればお願いしたい。
- 【委員】 リクエストの傾向から好きなカテゴリーやジャンルなど本の情報を利用者にメールでPRしてはどうか。
- 【委員】 利用者に、レビューの作成を依頼してはどうか。本の「タイトル」「著者」にひとこと書評を書いてもらう。図書館でジャンルごとに色分けして、カウンターなどに掲示すると良いと思う。
- 【委員】 それは素晴らしい提案だ。ぜひ採用して欲しい。

## (2) 平塚市子ども読書活動推進計画（第三次）の策定

- 【事務局】 資料2-1「平塚市子ども読書活動推進計画（第三次）策定状況」、資料2-2「第三次神奈川県子ども読書活動推進計画」資料2-3「平塚市子ども読書活動推進計画（第三次）概要版」を基に説明を行った。
- 【委員】 学校図書館の関係者からの意見はどのように反映するのか。
- 【委員】 子ども読書活動推進計画策定委員会の委員である2名の校長は、いずれも学校図書館と子ども読書活動に精通しているので、学校図書館の意見は反映できると思う。
- 【委員】 第一次計画では、事務局の職員1人でほぼ計画の素案を作成したと聞いている。第二次計画では、その点を反省し、計画を策定したが、説明を聞くと、三次計画ではさらに、多方面から意見を聞く姿勢を感じた。

## (3) 新たな図書館歳入事業の検討

- 【事務局】 資料3-1「他市の新たな基金、寄附金の取組」を基に説明を行った。
- 【質疑】 なし
- 【委員】 資料3-2「鎌倉市図書館振興基金」資料3-3「他市図書館の取組」を基に、図書館基金の受入の取組事例や、蔵書寄贈の取組、歳入確保の事例紹介があった。
- 【委員】 平塚市図書館では寄附金の受入の仕組みはあるのか。
- 【事務局】 現在はない。条例の制定が必要になる。
- 【委員】 他市の条例を見る限り、ハードルは低いと感じた。基金の設置で事務量が大幅に増えるなら別だが、受入れの仕組みを設けるべきと考えるが見解を伺いたい。
- 【事務局】 前向きに検討したい。
- 【委員】 会議資料に同封されていた前回の図書館報のように欲しい図書などをPRすると貸出の利用が多い図書の寄贈につながると思う。
- 【事務局】 委員から紹介があった「横浜市中央図書館開館20周年図書寄贈のお願い」だが、館内でも「こうしたリストを作成するべき。」という意見と、「寄贈をお願いする人にそこまで提示しても良いのか。」と2通り考えが分かれている。
- 【委員】 新刊書でも1度読んでしまえば、本棚に置いておくよりは、図書館に寄贈して多くの人に読んでもらいたいという人も私を含めて多いはずなので、寄贈して欲

しい本を提示して寄贈を呼びかけても良いと思う。

#### (4) 学校図書館と公共図書館の連携

- 【事務局】 資料4「海老名市有馬図書館の学校図書室支援センター事業」を基に説明を行った。
- 【委員】 海老名市のように、平塚市の図書館でも学校図書館のコーディネーターを配置し、そのコーディネーターの身分は、専門会社からの派遣社員であることは、可能なのか。
- 【社会教育部長】 きちんとした手続きを踏むことや、指揮監督面の問題はあがるが、可能であると思う。
- 【委員】 興味深い事業だが、業務が増えるなかで、現在のスタッフでさらにこの事業を行うのは難しいと思う。予算が確保できればやるべき事業だと思う。
- 【事務局】 学校図書館と公共図書館の連携は子ども読書活動推進計画（第三次）のテーマであり、ここだけでなく学校側でも同様の意見があれば検討したいと思うが、学校側の意見を伺いたい。
- 【会長】 学校図書館では、「図書だより」を発行しているが、学校内や学校間では、相互に回覧しているが、公共図書館には回覧していない。公共図書館にも回覧し、アドバイスをいただき、利用者にも見ていただければと思う。これが学校図書館の「図書だより」を発行している学校司書のスキルアップにもつながると思う。
- 【事務局】 今の提案は、可能な学校から、実施していただければ有り難い。
- 【委員】 学校図書館は「学習支援センター」であって欲しい。そういう意味で学校図書館をコーディネートする人材は必要で、是非配置を検討していただきたい。海老名市ではさらに専従の支援員がいるが、そういった人よりは、「学習支援センター」の機能を強化するため常駐している学校司書の勤務日数を増やしていただきたいと思う。
- 【委員】 子ども読書活動推進計画（第一次）と（第二次）では、教育委員会の関連部署が連携して学校図書館を支援することにしたが、主導的に学校図書館支援センターの役割を果たす部署があつて、そこに専門知識を持ったコーディネーターがいるのが理想だと思う。
- 【社会教育部長】 学校図書館のコーディネーターの配置が実現すれば、子ども読書活動推進計画（第三次）計画の策定でも大きな目玉になるが、学校教育部が深く関与している分野であるため、実現に向けては慎重に議論を進めていきたい。

#### (5) 今後の図書館運営

- 【事務局】 資料5「桑名市中央図書館くわなメディアライブラリー」を基に説明を行った。
- 【委員】 資料1-2の地区館長からの考察で、視聴覚資料が購入できないのが来館者減の大きな要因とあつたが、桑名市中央図書館ではどうだったか。
- 【事務局】 視聴覚ブースやシアタールームは撮影禁止であるため、紹介ができなかったが、ここ数年で整備された図書館と比較しても遜色のないほど整備されていた。
- 【委員】 効率や評価が第一のように感じた。面倒な資料、例えば最近世間を騒がせた漫画や本などの閲覧はどう対応したなど考え方も含めて聞ければ興味深い。

(6) 来期以降の図書館協議会の委員構成(案)

- 【事務局】 資料6「来期以降の図書館協議会委員の構成(案)」を基に説明を行った。
- 【委員】 学校長に代わって司書教諭や学校司書が図書館協議会に加わることは必要で、より現場の意見が反映されると思う。ただし開催時間等の配慮が必要。
- 【事務局】 実現の場合は、開催時間等の配慮は可能な限り実施したいと考えている。
- 【委員】 適任である候補者はいるのか。
- 【委員】 小学校、中学校ごとに司書教諭等で構成される学校図書館運営を研究する部会があり、それぞれの部会長は適任者だと思う。図書館から依頼があれば、私からも推薦しても良いが、この件は、校長会にも諮らせていただきたい。
- 【社会教育部長】 今回の「来期以降の図書館協議会委員構成(案)」は、先ほどの「子ども読書活動推進計画(第三次)イメージ例示」と同様に、結論ではなく議論を深めるためのたたき台であるが、学校図書館の現場の声は反映させていきたい。こちらからも協力をお願いする。
- 【会長】 他になければ、最後に社会教育部長から閉会の挨拶をお願いする。
- 【社会教育部長】 図書館は、本日例示した指定管理運営の海老名市有馬図書館や三重県の桑名市中央図書館の取組が注目を浴び、さらに、近隣市でも窓口委託化を進めている。今後も、例えば「藤沢市のように地区館の一つを市民と協働型の運営の図書館にしてはどうか。」「中央図書館の窓口業務の一部を専門会社に委託してはどうか。」といった議論は出てくると思われる。
- また、各中学校区の子ども読書活動推進協議会だが、一部の協議会で活動の継続が難しい協議会が出ている。先日の子ども読書活動推進懇話会でも、ボランティア不足などの切実な声が構成員から寄せられており、こういった問題も、今回の図書館協議会でも検討していきたい。

3 その他

- 【事務局】 次回の協議会は8月20日(水)14:00から、この中央図書館で開催を予定している。
- 【会長】 閉会を告げた。

以上